

フロア・セブン

ニュース

NO. 8

市民フロア・セブン協議会
平成 29 年 3 月 4 日
府中グリーンプラザ気付
高橋和夫

私たち市民は「のり弁」はいらない！府中市は情報の公開を！

南口再開発ビル ハ王子の指定管理者に決定！

市民フロア・セブン協議会は南口再開発ビルの運営についてどのよう運営されていくのか重大な関心があります。担当窓口になる市民協働推進本部に対して質問書にまとめ話し合いをしてきました。残念なこと指定管理者について公募状況、公募要項などについては答えただけませんでした。

南口再開発ビルには200億円



まだまだ使えるグリーンプラザをなぜ？

近くの税金が投入されました。府中市の使えるスペースは、地下の駐輪場と音楽室それに5階と6階です。6階はすべて有料の会議室になります。

府中市は運営について指定管理者に丸投げをしました。運営の根幹をつかさどるのが指定管理者になります。指定管理者を決めることは極めて重要なことです。最初の運営が今後の基本になります。しかし指定管理者を決める選定会議は非公開でした。どのような議論がされて決まったのか市民にとっては分かりません。経過は「答えられない」会議については非公開ということでした。

やむなく市民フロア・セブン協議会は2017年1月10日付で情報

開示請求をしました。通常は10日間開示されますが、膨大な事務作業のために開示されたのが2月16日でした。

府中市から情報開示される。最上級の「のり弁」でした。

現在、東京都の豊洲問題で石原元知事主導のもとに行われた東京ガスの跡地取得問題で疑義が生じたために「100条委員会」が設置されることになりました。土地取引をめぐる情報開示請求で真っ黒になつて開示された文書を小池知事は「のり弁」と称しました。東京都では知事の判断で「のり弁」を変えることができました。読める文章になつたのです。

府中市から届いた情報開示請求の回答はまさに「のり弁」でした。1100ページを超える文書の内訳は、900ページは黒塗りでした。残り200ページは部分黒塗りの文章が開示されました。個人情報や企業の印影など知られたくない情報もあることは理解しますが、判読不能の文章コピーを1枚10円で購入する気にはなりません。府中市の

みずほ銀行が取り壊されて、エンピツのような姿を見せたグリーンプラザ、この広さは今まで通りの使い方がいいのでは



こんなに狭い面積にどんな商業施設が入れるというの？

情報開示の在り方について疑問を感じざるを得ません。

開示された文書から読み取りますと、公募に応じたのは4社ありました。

そのうち2社が千代田区の会社でした。後は府中と八王子の2社で結果は八王子にある「エンツリー」に決まったということ。公募という形をとったならば、公開性が求められなければなりません。

八王子の「エンツリー」は南口再開発ビルの5階の使い方の一つに②活動や交流が促進される施設とあり「間仕切りのない施設を生かすし、多様な世代、活動の交流を促進します」となっています。活動が市民に見えることがコンセプトになっています。

(裏へつづく)

これでは、DV被害や貧困の問題など困難を抱えて生活している人々の相談に乗っている団体にとっては有料のスペースを使えということでしょうか。

しかし、会議室の使用料金は2倍近い料金設定になっています。個人情報を守られる会議室が必要です。

グリーンプラザを残して

ほしい切実な要請

現在グリーンプラザを利用して自主保育をしているグループがあります。先日市民フロア・セブン協議会に246筆にのぼる署名を届けていただきました。グリーンプラザが解

住吉町 中河原公園 「なかよし」



作者 高橋 剛
晴見町「なかよし」の同作家

体処分されることに切実な思いでいる証です。商業施設に作り替えることに改めて反対します。

登録団体の紹介

寿囲碁同好会

三村 義次

発足以来十五年になりました。主にグリーンプラザを中心に、月に4回対局会を開催し、月末にはミニ大会を開催して腕をみがいでおります。

会員は二十数名（女性は四名）で初心者から、有段者まで年齢は六十代から九十代まで、皆さん元気に碁を楽しんでおります。

囲碁は中国に始まり、日本には平安時代に伝わり、貴族の趣味として楽しまれてきました。

寿囲碁同好会は、会の名の如く年配者が余暇を楽しむつどいの場となっています。

今后も皆さんの協力で、会が続くことを祈っております。

街宣でニュース200枚、署名20

2月25日の街頭宣伝では5人が参加し、ニュースを200枚配り、署名も20名分もらいました。道行く人の意見は、「子供の保育でグリーンプラザをよく使っているの、なくなったら困る」「築35年でしょう。まだまだ、使

えるのに、もつたない」「古くなつたから壊すというけど、トイレなんかを直すだけで壊さなくたっていいんじゃない」「もう、決まってるんじゃない」「府中市は本当に無駄使いばかりやっている。何回も美術館に行ってみているけど大した展示をやつてないし、無駄だと思うわ」

自然エネルギーを考える会

宮井 迅吉

「自然エネルギーを考える会」は、3・11大事故のあとの2011年9月29日に社会教育関係団体として発足しました。

きっかけは準備が始まった「府中市に自然エネルギー社会をめざす都市宣言を求める署名運動」で運動を進めるには独自に学習と研究が必要という数名の有志が集まったことです。

この運動は1万5000人を超す署名を集め盛り上がりました。今も定例学習や、映画会、見学会を重ね、市に対しても提言を行うなど活発に活動しています。



パラボラを太陽光パネルに

自然エネルギーを考える会